

お泊まり会

本年度の年長組の「お泊まり会」は、7月22日(月)～23日(火)に実施しました。宿泊施設は、以前から利用している「鈴鹿青少年センター」です。この施設は、リニューアル工事を経て4月に新しく「スズカト」として生まれ変わり、新しい施設での宿泊となりました。22日(月)の朝、それぞれの幼稚園へ元気いっぱいの年長組の子どもたちが集合し、第2すずかきしおか幼稚園の子どもたちは通園バスですずか幼稚園へ移動しました。



両幼稚園の子どもたちが集合し仏参を行った後、卒園製作として「陶芸」に取り組みました。講師の先生や幼稚園の先生たちに教わりながら粘土の感触を楽しみ、真剣な表情で個性のある素敵な作品をつくり、嬉しそうに取り組んでいる姿が印象的でした。

その後、園内で昼食のお弁当となり、友だちとランチタイムを楽しみました。午後からスズカトに移動し、広いスペースで「ゲーム大会」を実施しました。「めざせおたからGET!～島わたりゲーム～」 「パンドろぼうをつかまえろ!!」 「ダンボールをハイハイ! テンションはHight! Hight! キャタピラレース!!」の3つのゲームをいっぱい楽しみ、その後、おやつタイムでドーナツを食べました。



入浴タイムでは、各クラスの男女に分かれて友だちとお風呂を楽しみ、夕食となり、その後、楽しみにしていたキャンプファイヤーとなります。

入浴から夕食の時間帯は、空が厚い雲に覆われ、いつ雨が降りだしてもおかしくない様子になってきました。他地域では雨が降りだしたとの情報もあり、心配しましたが、子どもたちの心がけが良かったおかげで、雨が降ることもなくスズカトの横にある多目的広場でキャンプファイヤーを楽しむことができました。

就寝の準備をしてそれぞれの部屋で眠りについていきました。以前の青少年センターの時には大部屋で各クラスがまとまって寝ることができたのですが、リニューアルされたスズカトでは、10名が寝ることができる部屋もいくつかあるものの、4名しか寝ることができない部屋もあり、クラスでもいくつかの部屋に分かれての就寝となりました。それぞれの部屋には、教員を配置しお子さま方の様子を見させていただきました。

23日(火)は6:00に起床となっていました、5:30頃から起き出してしまう子も多くいて、歯磨きや髪の毛のセットなどをして、「朝のつどい」を行いました。

体操をして、写真撮影をし、朝食へと入っていきます。みんなで朝ごはんを食べ、退所式を行って、スズカトに別れを告げました。夕食や朝食を食べた後にレストランの方々に「ごちそうさまでした」と言ったり、スズカトを去る際に係の方々に「ありがとうございました」など、大きな声でしっかりと挨拶ができたことを嬉しく感じました。

子どもたちは、こうした体験を重ねることにより、一回りずつ大きく成長していくものと思いました。



子をそだててこそほんとうの母親に

イヌを飼った経験のあるかたならおわかりと思いますが、イヌの場合も、親愛の情を現すため、飼い主の口の周りをなめることがよくあります。おそらく、その行動は、オオカミたちのなめ行動・・・吐き戻し、という一種の行為と軌(き)を一(い)つにするもののように思います。(オオカミのオスは、エサを食べて巣に戻り、子どもたちが親の口の周りを舐めるとエサを吐き戻して食べさせるという習性があります。)



もちろん、イヌの場合は、飼い主に吐き戻しを期待しているわけではありませんが、なめ行動は、愛情を表現するシンボリックな行動として残っているのだらうと思います。

なめる、なめられる、というオオカミたちの行動は、その生理的な意義をはるかに超えて、心理的な絆を結ぶことに大きく寄与しているのです。

これこそ、母子の信頼の源、いうなれば「原信頼」というべきものでしょう。

「子を産んだから母親なのではない。子を育ててこそほんとうの母親になるのだ」という言葉は、まさに、このことをいっているのだらうと思います。

母子の間に生まれる信頼関係は、なめる、なめられるという、実に肉体的な経験を通して結ばれていくものなのです。

母性愛は、子どもを生んだだけでは生じない、母と子の共同作業の中でこそ生まれ育つ・・・この言葉の意味も、同じことを示していると思います。

最近、良く用いられる「母子相互作用」という言葉が端的にその間の事情を物語っています。

ここで生まれた信頼関係は、母子から家族に及び、その子どもの属する種類全体への信頼につながっていきます。

それだからこそ、この子どもたちは成長し、親離れをし、その種類が構成する群れ社会の一員として巣立っていくことができるのです。

(元上野動物園長 中川志郎 著「パンダは舐(な)めて子を育てる」より抜粋)

